

本セッションでは、河川の底生生物相の劣化要因に関する現地観測、室内実験に関する報告1編、干潟・マングローブ域における底生生物の分布と物質循環に関する現地観測1編、水生動植物への塩分濃度の影響に関する室内実験1編、駿河湾での移入種の分布に関する現地観測報告が1編、牛久沼における底生動物群集組成の変動に関する報告1編、感潮域におけるハラグクレチゴガニの分布特性に関する報告1編と多彩な内容であった。

1-D-14-1 は、厚別川における底生生物相の劣化に関して、SS や重金属類の影響について現場・室内実験の両データから解析しており、今後の研究の発展性を期待させる。

1-D-14-2 は、亜熱帯域の干潟・マングローブ域の底生生物による、マングローブ林由来のCNP同化比率を定量化しており、Cで2.7%、Nで40.2%、Pで31.3%程度と非常に高い値と評価している。同様の水域での物質循環における底生生物の重要性を示した貴重な報告と考えられる。

1-D-14-3 は、水生動植物への塩分濃度影響について実験的に解析した事例であり、沈水植物のみならず動植物プランクトンの動態についても言及しており、いさはや新池において今後予想される生態系変化を俯瞰的に検討した内容となっている。

1-D-14-4 は、現地調査から駿河湾港湾域における移入種の問題について、特に船体付着による移入の可能性について検討を行っている。本稿では国際貿易港とローカル港との比較検討も行っており、バラスト水の影響、幼生の移流分散等の加入形態も併せて考えることで、より包括的な研究へと発展することが期待される。

1-D-15-1 は、牛久沼における底生動物群集組成に関するデータの蓄積が無いところに着目し、特にユスリカ科幼虫の分布について詳細な検討を行っている。水域内の平面的な分布特性に加え、約30年前のデータとの比較による出現種の変遷についても言及されている点が非常に興味深い。

1-D-15-2 は、河川感潮域に生息する準絶滅危惧種ハラグクレチゴガニの生息実態について調査した貴重な事例である。特に巣穴数と個体数との相関を定量化している点は、今後の調査継続において助けとなる実用的な成果と言える。

(港湾空港技術研究所 井上 徹教)